

令和5年度入試（令和4年度実施）の情報開示  
 解答例又は出題意図について

入試の区分	一般入試（前期日程）
学部学科等	人文学部・教育学部
教科・科目名	国語／国語総合
解答例	<p><b>1 解答例</b></p> <p>問1 (ア) 偏（「片寄」も正解）(イ) 追究 (ウ) しょせん（「ショセン」も可）        (エ) 典型 (オ) 治癒</p> <p>問2 I イ II ア</p> <p>問3 文学作品はそれぞれの時代の独自の価値観を反映しており、価値は相対的なものであるという観点から、客観的に文学作品を評価し、その歴史における位置を明らかにしようとする学問。</p> <p>問4 流派 ウ 作品 ク シ</p> <p>問5 i ア ii イ iii ア iv イ v イ vi ア</p> <p>問6 人物が虚構であろうと現実であろうと、人はその人物の属性にまつわる物語（エピソード）を通して理解するということ。</p> <p>問7 感覚的・感情的コミュニケーション        （「感情・感覚」「感情や感覚」「相手に生じる感情や感覚（を期待して話す）」も正解）</p> <p><b>2 解答例</b></p> <p>問1 エ</p> <p>問2 疲労がたまって怒りっぽくなっている。いらだっている。</p> <p>問3 ア</p> <p>問4 父をかばうようなことを言うと、妻の感情をいっそう悪化させる心配があるから。</p> <p>問5 義母が、自分の娘たちには世話をさせまいと努め、足のマッサージも嫁である自分だけにさせていたことが分かり、また夫もそのことを知らなかったから。</p> <p>問6 「厭だと態度に表してるじゃないか。」</p> <p>問7 仕方なく適当に母の面倒をみているに過ぎないのに、心から尽くしている孝行者だとほめられて、とまどった。</p>

	<p><b>3 解答例</b></p> <p><b>問1</b> (a)わけもなく・無性に (b)ひたすら勤行して</p> <p><b>問2</b> 都を離れてみても資盛を亡くした辛さは薄れず、改めて物悲しさを痛感している。</p> <p><b>問3</b> いくほどならじを</p> <p><b>問4</b> ただひたむきに恋人として逢ったあの人の後世が安らかでありますようにとばかり祈る</p> <p><b>問5</b> 雪の深く積もった橘の木を見たことで、その光景から、同じく雪と橘に関する資盛との思い出が蘇り、その喪失感を強くしたから。</p> <p><b>問6</b> 尋ねてみよう。今は五月ではないけれども、その橘の木には、昔私が親しんだあの人の袖の香りが残っているだろうか。</p>
備 考	